

春

春の園内は花盛り。一年で一番花が多いこの季節は、色とりどりの花を楽しめます。木々の葉も開き新緑も眩しい園内を散策してください。



正門入口の正面東屋の藤棚フジ棚



ハナノキ

カエデの仲間、花が美しいことから別名ハナカエデといわれます。動物園（本園）にある資料館が建てられた1942（昭和17）年に建物の横に植えられ、現在は2階の屋根より高くなっています。3月中旬頃に開花します。



フジ

5月上旬頃、花が咲きます。藤棚の下のベンチに座り花を楽しむこともできます。

メタセコイア

メタセコイアは1945（昭和20）年に中国四川省で発見された植物です。1950年（昭和25）年にアメリカから日本に100本の苗が寄贈され、国内各地に配られ生育調査を依頼されました。その中の1本が資料館前のメタセコイアです。



夏

夏の園内は虫の活動時期。クスギやコナラなどの樹液にカブトムシやコガネムシの仲間が集まります。草むらではバッタの仲間たちを観察することもできます。

ネムノキ

梅雨時から初夏に開花します。薄紅色の花が10～20個集まって一つの花を作っています。名前の由来は日が落ちてから葉を閉じる就眠運動からきています。



ハギ

秋の七草の一つです。萩は草かんむりに秋と書き秋の花ですが、園内では夏の終わりから秋の初めにかけて咲く姿を見ることが出来ます。

秋

秋の園内は実りの季節。子供たちに人気のドングリや、様々な色、形の木の実や種がいっぱい生ります。秋の終わりは葉が色付き、赤や黄色に園内が染まります。



イチョウとイロハモミジ



ラクウショウ



キンモクセイ

花の香りが良く、クチナシ、シンチョウグ、と並び「三香木」の一つとされています。

紅葉

園内の紅葉は11月中旬から12月上旬にかけてが見頃となります。



トウカエデ

冬



雪吊り・霜除け

当園の農園芸職員が製作する冬の風物詩「雪吊りと霜除け」は12月上旬から3月啓蟄の頃までご覧いただけます。



冬の園内は冬木立。園内では木々の葉が落ち冬景色になります。ケヤキやメタセコイア、ラクウショウなど大木たちの本来の美しい樹形をみることが出来ます。枝先の冬芽は寒さを防ぎ春への準備をしています。



ウメ

2月になるとウメの花が咲き始め、春が少しずつ近づいていることを感じさせてくれます。

資料館前のホオノキは園内で一番太い木です。白く大きい花は香りがあり5月に開花します。一つの花の寿命は2～5日程度と短いのですが、1本の木が少しずつ順々に花を咲かせるため約1ヶ月の間花をご覧いただけます。

ホオノキ



アカマツ・クロマツ

動物園（本園）で見られる大きな松の多くは、100年以上経っているといわれています。一部の木には、太平洋戦争中に戦闘機の燃料にするため、松脂を採取した傷跡が残っています。

動物の食べ物

園内の植物の一部は動物のエサとしても使われています。剪定作業で出た枝は草食獣のエサに、切り株は動物舎の装飾や遊具になります。



ドクダミ



ネズミモチ



シラカシ

マテバシイ



アオキ

サクラ



カモシカ



マーラ

植物と野鳥

秋から冬にかけ、木の実を食べに来る鳥たちの様子を観察することができます。



シロハラ



メジロ



マユミ



サンシュユ



クサギ



ムラサキシキブ



エノキ

山野草園

資料館付近の山野草園は、ボランティアが自主管理しています。年間を通じて様々な山野草を楽しむことができます。



カタクリ



エビネ



ヒガンバナ



キチジョウソウ



セツブンソウ